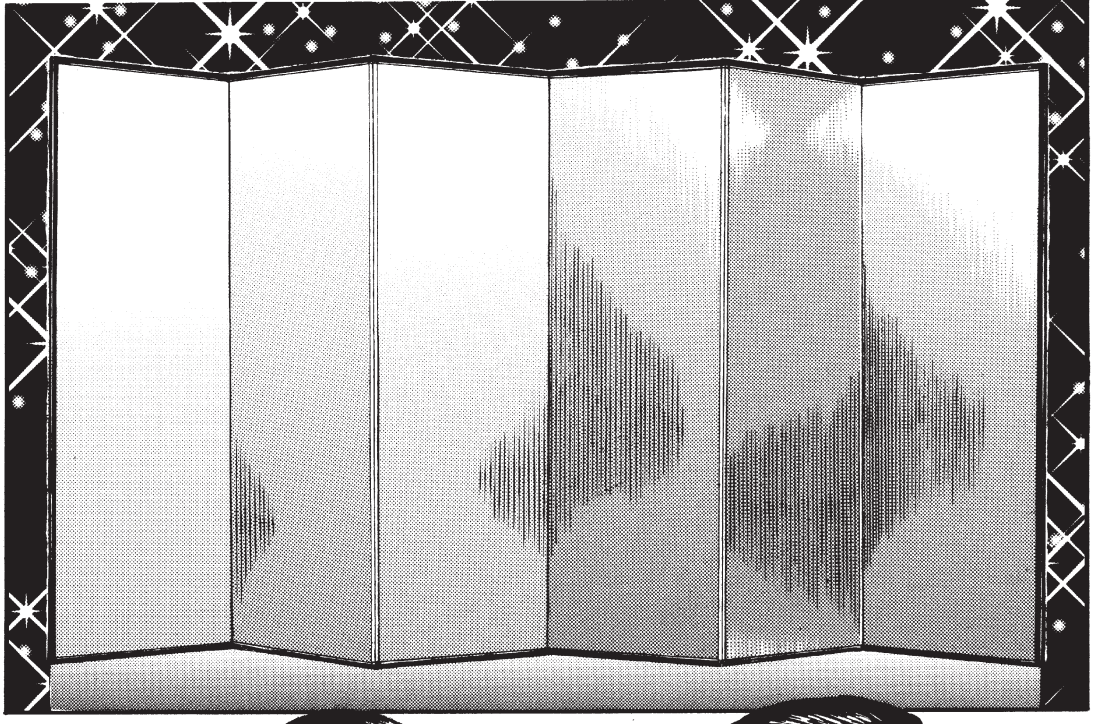

買い手の気持ちを汲み取り
作り手同士で息を合わせて作る最高のおもてなし

～金屏風～

金屏風のこばやし

作 桂田　健治

金屏風

無地であるため
つつましくかつ
金箔の絢爛さを
兼ね備えており
婚礼の場など
おめでたい席で
多用される

父が創業、
兄が
後を継いで

自分は
大学を出て
さまざまな職業を
経験した後
兄の会社に
入社しました

小林 興司 社長

昭和40年代に
国内に
ホテルが
乱立し
ホテルで
結婚式を
挙げるのが
流行

金屏風の
ニーズも
どっと増え

昭和54年に
独立
しました

しかし平成4年に
バブルが崩壊

以後10年間で
大手の屏風製造業の
ほとんどが廃業

402 金屏風のこばやし

我が社は現在
都内で数少ない
金屏風専門業者です！

金屏風の製造工程で一番難しいのは

「あい折り」と呼ばれる蝶番(ちょうつがい)です

当社は和紙ではなく布を使い

このようにはりつける

この「あい折り」によって

屏風が360度開くようになります

「あい折り」は日本独特の工夫で

金紙を中へ折りこみ

ギュギュッ

スキマをなくすことにより絵が描け

絢爛豪華な金屏風が多数生みだされることになりました

金屏風は高さが2mを超えるものも多いため

製作はひとりでは難しく

たがいの呼吸が合わないと良い仕事はできない

独立後社長をささえ

息の合った仕事をしてきたのは奥様だった

しかし平成7年

48歳で他界

当時　私は高校生でした

母の死後、料理や洗濯など

家の仕事は父がやるようになり

大変そうだな

短大を出て念願の幼稚園の先生になりましたが

その後、結婚・出産を経験したことで親の気持ちがわかるようになり

平成16年入社しました

根本 早羽子 工場主任

父娘で仕事をするようになって10年

ギュッ ギュッ

2人の息はピッタリ合っている

スッ スッ

昔とくらべ今は職人の地位が向上したような気がします

あと10年がんばってもう少し知名度を上げ娘を中心にやっていけるような体制にしたい

職人はね難しいことはやらないんです

しいてあげればスピード

単純なことをどれだけ素早くやれるかです

最近では地元の小学校の工場見学を受け入れていて

小さな金屏風を作ってもらっています

今でも代理店を通さず直接取引にこだわっています

間に人を入れると直接話を聞くことができず勘がにぶってしまいます

そのおかげか品質にこだわる国立劇場や明治座舞台一流ホテルなどから仕事がくるようになりました

国立

「職人は職人以上になってはいけない！」父の言葉です

その言葉を心に刻み職人として精進しつづけます！